

新風を吹き込む

共に創る実践～

「まちかけ」定例会は期待に満ちたネットワークの心臓部

「まちかけ」の取組に関心のある人誰もが参加でき、課題や思いを定期的に共有できるネットワークを生み出す場となっています。

参加者が持ち寄るアイデアも、「まちかけ」を通じての縁・交流の継続を意識したものに変化してきています。



まちかけ定例会（8月）の様子

ケアプラザと話しあいを重ね、「そうだ、六角橋は神奈川大学とその学生のまちでもあるのだ」と思い至った時、「まちかけ」にまちづくりの未来を感じました。学生は自分の子どものような存在でもあり、まちづくりに新鮮な考え方、先進的な知識・技術を届けてくれるエネルギーの源として触発される同志でもあります。



(左から)
六角橋自治連合会会長 森さん
六角橋商店街連合会会長 石原さん

神大マルシェでは出店していただいた後が大事だと助言をいただき、協力のお礼のあいさつに回りました。マナーも身に着けられると感じています。（大森さん）

「まちかけ」は、学生の僕らにもっと面白いこと、他の人が考えそうもないことを求めてきます。まちの皆さんに見守られて学生主体で活動できる点が特に魅力的です。（小倉さん）

神大マルシェや六神祭の帰り際に地域の人から「来年もね！」と声をかけられ、喜びはひとしおでした。（三輪さん）

「まちかけ」を通じていろいろな人と行き来が生まれ、的確な助言、応援をもらって充実した企画として形になります。（川島さん）

まち 学生

かける X



(左から) 神大ボラ室の大森さん・三輪さん・小倉さん・川島さん

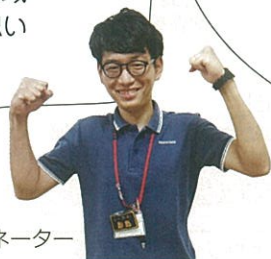
世代や所属を超えまちづくりに取り組む中で、まちの方の熱意や思いと学生のアイデアがどんどん形になる「まちかけ」のエネルギーは、周りの方を巻き込んでいく地域の魅力だと思います。

「まちかけ」は、若い世代の発想を地域で受け入れて実践する場です。あらゆる立場や世代が結びついて地域づくりをすすめており、他の地域にも参考になる取組です。

多種多様なコミュニティと交わることで、自らの発案を形にすること。それを学外のネットワークの中で経験させていただき、学生の人間力を培う得難い場になっています。

こうした顔の見える関係がもっと学内全体に広がり、若い力がまちにむけて発揮されていくよう伴走していきます。

横浜市六角橋
地域ケアプラザ
地域交流コーディネーター
原島さん



神奈川区社会福祉協議会 根本職員



(左から) 神奈川大学地域連携推進室 市川さん
神奈川大学教育支援センター 旭さん